



Han版 Fan

Vol.59

2019年 秋冬号

美人画の時代 —春信から歌麿、そして清方へ—



2019年10月5日(土)～11月24日(日)

観覧料：一般=900(700)円/大・高生、65歳以上=450(350)円/
中学生以下は無料

※()内は20名以上の団体料金。

※10/5(展覧会初日)、11/3(文化の日)は入場無料です。

数々のスター絵師が活躍した、18世紀後半の浮世絵界。天明・寛政を中心とするこの時期は、いつからか浮世絵史の「黄金期」として親しまれてきました。その中心となったのが、人物を美しく活き活きと描いた「美人画」です。鈴木春信以降、礒田湖龍斎、勝川春章、鳥居清長、喜多川歌麿、鳥文斎栄之ら、個性豊かな絵師が次々と登場し、理想の美人像を追い求めました。

描かれたのは評判の遊女や町娘、若衆と呼ばれる若い男性、愛情あふれる母子や恋人たちの姿。さらに憧れの的でもあった女形の「役者絵」や、人間の性愛を時に美しく描いた「春画」にも美人表現が見られます。

本展は、この「美人画の時代」の軌跡を、約240点の版画、版本、肉筆画で辿るもので。時を経て、天明・寛政が「黄金期」として高く評価されてゆくなかった木清方や上村松園ら近代の画家たちが往時の美人画に想を得ていたことにも目を向けて。「黄金期」の美人画とは何だったのか—その普遍的な魅力を、現代のわたしたちの視点を通して考えます。

(学芸員 村瀬可奈)

喜多川歌麿「青楼七小町 玉屋内 明石 うら次 しま野」

寛政6-7年(1794-95)頃、大判錦絵、神奈川県立歴史博物館

本展は、『はんび浮世絵プログラム2019』2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、毎年テーマを変えて浮世絵展を開催する展覧会プログラムの第三弾。2017年は「明治維新から150年 浮世絵にみる子どもたちの文明開化」、2018年は「浮世絵モダーン 深水の美人！ 巴水の風景！ そして…」を開催しました。
本展のみどころ

- (1) 黄金期浮世絵が勢ぞろい！版画だけでなく、肉筆画も多数出品します。(出品総点数約240点)
- (2) ふるさと納税「町田市立国際版画美術館に『歌麿』を呼ぼう！」寄附者への感謝を込めて、収藏した歌麿作品を初公開。当館コレクション初の歌麿作品です！

※身体(精神)障がい者手帳、愛の手帳をご提示の方と付き添いの方1名は半額。※友の会会員は会員証を提示すると無料。

休館日：月曜日 ただし、9/16・9/23・10/14・11/4(月・祝)は開館。

9/17 9/24 10/15 11/5(火)は休館、年末年始12/28～1/4休館

新任のご挨拶

町田市立国際版画美術館館長 大久保 純一



はじめまして。この4月に着任いたしました。専門は浮世絵を中心とした江戸時代の絵画で、とくに広重の名所絵などに関心を持っております。

こちらの版画美術館は、錦絵の誕生を中国の色摺りの詩箋との関係で考察した1999年の「江戸の華 浮世絵展」や、浮世絵の武者絵にとって空前の大展覧会だった2003年の「浮世絵 大武者絵展」など、画期的な展示をいくつも開催しており、その活動にはたいへん注目していました。こうした意欲的な活動を進めている美術館に自分が迎えられることになるとは想像もしておらず、就任の打診を頂いた昨冬からめまぐるしい展開に正直まだとまどっているところです。年齢を重ねるにしたがい、専門を新たに広げるという意欲も次第に薄れつつありましたが、こちらにポストを頂いたことを機に、学生時代に戻ったつもりで近現代の版画や西洋の版画など、関心を広げていければと考えております。日頃お世話になっている友の会の皆様とは、いろいろな機会に版画談義をさせていただければ幸いです。

美術館建設への畦地梅太郎さんの想い

2012年11月発行 Han 版 Fan
43号友の会15周年記念号掲載

9月21日、鶴川の「あとりえ・う」に畦地梅太郎さんの長女・美江子さんを訪ね、版画美術館開館を切望した梅太郎さんの想いを語っていただきました。

梅太郎さんは、日本はもとより海外でも高い評価を得ております。とりわけ、戦後米軍の文官として来日し、のちに世界有数の版画コレクターになったオリバー・スタッフラー氏により、日本の創作版画は海外に紹介されました。彼は梅太郎さんの工房にも足を運び、1959年文元社から彼の監修による『畦地梅太郎版画集』が発行されました。

町田市立郷土資料館が1976年に町田市立博物館と名称を改め、美術工芸品の展示ができるようになると、博物館で梅太郎さんの展示会が開催されました。その後、「国際版画美術館建設準備委員会」が発足したものの建設は遅々として進まず、この混沌とした状況を心配した梅太郎さんは、1983年に「なんとか建設に役立ててほしい」と、展示了した作品275点すべてを町田市に寄贈しました。

当時版画は芸術として評価が低く、後輩のためにも何とか展示する施設がほしかった梅太郎さんにとり、版画美術館は「わしらのように、あの大変だった創作版画時代を生きてきた者にとって、夢であり、念願だった」と。

開館25周年に当たり、梅太郎さんの想いと、世界に名だたる当版画館の存在意義をあらためて認識した次第です。梅太郎さんは1996年町田市名誉市民となりました。 (M)



山のよろこび 1957年
※当版画美術館では9/23(月)まで「畦地梅太郎・わたしの山男」展示中です。

故三橋國民さんを偲んで

町田市役所庁舎のモニュメント『ファイブ ストーンズ』の作者は、昨年2月4日に97歳で亡くなられた町田市名誉市民・東京都名誉都民の造形美術家として活躍された三橋國民さんです。2012年まで国際版画美術館友の会の理事・顧問として友の会を支えてくださった方です。

1920年に町田で生まれた三橋さんは太平洋戦争中、ニューギニア戦線で所属部隊40人のうち2人のみ生き残り、帰還されました。以降、造形美術家として僚友たちへの「鎮魂」と「平和への願い」をライフワークとして彫刻・絵画・彫金など幅広い創作活動を続けてこられました。「ファイブ ストーンズ」の制作者としても町田市民に広く親しまれていますが、他にも薬師池公園「自由民権の像」、駅前新都道「明けゆく」、勝楽寺内「鎮魂美術ギャラリー」、「潮音大仏」「十大弟子水墨画」「四天王像文鍍金透彫り金銅大天蓋」などの作品が町田市内にあります。三橋さんは作品制作と併せて、“文化都市 町田”を目指す活動もされていました。数々の作品を拝見しながら、ご冥福をお祈りいたします。

友の会広報部 井戸上千鳥

素晴らしい銅版画の仲間たち

間宮先生、伴野先生と素晴らしい仲間たちの講座。エッチング、メゾチント、アクアチント、ドライポイント etc. さまざまの技法を駆使して個性豊かな作品が並ぶ。講座修了後の懇親会も楽しく、年に一度の同窓会。

私が講座担当になって10年以上経つ。作品を見ると制作者の顔が次から次へと浮かぶ。個性が溢れている。プロの作品と比較しても遜色ない。版にインクをのせてプレス機で刷り、刷り上がった作品を見る時の、ドキドキとする感覚。誰の真似をするわけではなく、オンリーワンの作品ばかり。友の会会員展に出品して来場者の感想を聞く、自分の作品を一般の方々に届ける機会なんてそんなにあるものではない。小学校の作品発表会以来ではないか。

友の会会員展が終わり、春が来て、夏、秋、冬とすぐに次の講座が始まる。待ち遠しく、元気な皆さんと会える喜び、新しい作品に接する喜びがあるから講座担当を続けている。私にとって後期高齢者これからが、作品の深みが更に増すと信じて。

何事にも最初の一歩がある、未経験の会員の方々も新しい世界を開かれんことを。

友の会会員 内田孝憲

※本年度の銅版画教室は12月より開催。2019/12/14・2020/1/11・18・25の各土曜午後。2020/2/8・15の各土曜の午前と午後(全9回)

弥次喜多俱楽部道中記（弥次喜多俱楽部一丁上がり！）

東海道のミュージアム巡りをしてきた弥次喜多俱楽部は昨年10月の藤澤浮世絵館を最後に13年間の活動に終止符を打ちました。辻堂での打ち上げの後、幹事と会員有志は江の島弁天に赴き、これまでの旅が事故もなく無事に終えられた事への御礼参りをしてきました。

弥次喜多の旅は本来「京の三条大橋」で上りなのですが継続を希望する会員が多く、それではと三年の延長を決めました。遠方は大阪・神戸・奈良の三都。長い歴史と文化を持つ日本の「まほろば」でもあります。近郊の美術館巡りは白金・目黒・藤沢となりました。

13年間を振り返ってみた時、一番の思い出であり収穫は全員が第何回かの企画運営に参加した事です。日帰り旅は会員がチームを組み、日程・見学施設・食事場所等の下見をして決めました。30名近い会員が全員企画から参加したことは誇るべき事のように思えます。

旅では胸の痛む事もありました。地方の疲弊です。首都圏に住んでいると余り感じられないのですが、地方に下見に行くとそれが分かります。美術館・博物館の存続すら危うい場所があるのです。団体でのギャラリートークをお願いすると大抵二つ返事で引受けてくれました。我々は遠来の客。当俱楽部の性格を把握して持て成そうという意気込みがトークによく出ていました。それに答えるかのように我々も回を追うごとに聞き上手になっていったようと思えます。

こんなに熱心に聞いてくれた団体はめったにありませんという言葉を何度か頂きました。

弥次喜多終了にあたりある会員は「ある種の達成感があります」と言い、「人生の忘れられない思い出です」というお手紙も頂きました。こうして、たくさんの美術作品を見比べ、ギャラリートークで知識を深め、企画力も磨いていった経験を事業部事業へと繋いでいけたらと思っています。長い間の皆様の御支援ありがとうございました。

友の会会員 山田他美子



平成27年10月29日「京都三条大橋」

友の会だより

町田市立国際版画美術館友の会 第22回定期総会報告

4月20日(土)13時30分より第22回定期総会が版画美術館講堂にて開催されました。すべての議案は可決、承認されました。審議終了後、「10年継続会員」紹介と記念品の贈呈、「企画展 ミニ・レクチャー」、そして恒例のティーパーティーに移り、和やかな歓談のうちに閉会しました。

10年継続会員は11名。そのうち出席者は、増田美智子さんの1名です。

「友の会記念品」に加えて、館長より感謝メッセージと記念品が贈られました。

そして、今回のミニ・レクチャーは4/20より開始の企画展「THE BODY—身体の宇宙—展」。藤村学芸員の映像をともなった丁寧な解説に出席者は熱心に聞き入っていました。

なお、10年継続会員欠席者10名(青木浩、伊藤慶、小栗哲至、小貫眞誠、小林一、古賀邑美、佐藤靖子、中沖義博、福島麗子、吉原修)の皆様には後日、記念品を郵送しました。

第23回美術館バス見学会

・真鶴麻町立中川一政美術館 ・MOA(エム・オー・エー)美術館

2019/6/3 実施

曇り気味の朝8時に28名を乗せてバスは発車。さてさて、今日行くところはどこかな?と車内で配布された資料にお気軽に目をとおして予習をいたします。このお気軽感が最高で幹事様には感謝です。

中川一政美術館は真鶴半島自然公園に隣接しており、樹齢何百年もの樹木に囲まれた中にあります。館に一步踏み入れると、彼がこよなく愛したという駒ヶ岳や真鶴港の画面に叩きつけたような筆跡の大迫力に圧倒されます。数々の作品からは、目の前にあるものを彼の心で捉え筆を運んだ様子が伺われました。生前のアトリエをそのまま再現した場所では、97歳の背中を丸めた彼の姿がキャンパスの前に見えるようでした。

程よく空腹感が押し寄せてきた頃に『魚座』でランチ。小アジの開きの素揚げが絶品で、近所の干物屋で購入した小アジの開きが今夜のおかずになりました。

次に訪れたMOA美術館は、そのエントランスがすばらしく、長大なエスカレーターを乗り継ぎ、たどり着いた先は巨大な円形ホール。ドーム型天井に万華鏡を繰り広げたようなプロジェクションマッピングが幻想の世界にいざなってくれます。さらにエスカレーターでのぼり、大階段を上がり正面玄関へと。4mもの巨大な漆塗りの巨大な正面玄関に度肝をぬかれます。館内はガラスケースへの映りこみを防ぐべく黒い床に黒い壁。展示ケースガラスは鼻をぶつけてしまうほど透明度の高いものでした。『広重が描いた静岡』の展示がありましたが、それよりも館全体の雰囲気に飲み込まれたのでしょうか、バスの集合時間に遅刻する人が続出という不思議なハプニングもありました。

友の会会員 黒田奈生子



第21回「ゆうゆう版画美術館まつり」開催

2019/10/26(土)・27(日)

(版画美術館・友の会共催)

催事内容(予定)

- ★チャリティ・アートバーゲン2019
- ★木版画摺り体験
- ★玉川大学・学生アートイベント
- ★ポスター・デザイン原画展&表彰式
- ★歌磨シアター(国際版画美術館オリジナルビデオ)
- ★キッズ・アートスペース
- ★プロムナードコンサート
- ★飲食・物品コーナーなど

「ゆうゆう版画美術館まつり」は、町田市立国際版画美術館を拠点に町田市内外に“美術を愛する人々の交流の輪”を広げることを目的として行う、アートなイベント。今年度のコンセプト【Enjoy! Art!】をもとに多彩なイベントが繰り広げられます。会員皆様のご協力と、多数のご来場をお待ちしております。

第20回会員展報告

2019/3/12～3/17開催

恒例の会員展が本年も開催されました。出展者60名出品数112点(アーツスクール講師作品を含む)。会期中天候にも恵まれ609名の来場者で賑わいました。今年もアンケート回収に力を注いだ結果、おかげさまで多くの来場者の声を集めることができました。書評欄には、レベルの高さ、ジャンルの多様さ、雰囲気の良さ、など「すばらしい」との好評価コメントも多くありました。

皆様のご感想やご意見をもとにより満足していただける会員展につなげる所存です。

会員展実行委員会一同

・第21回会員展の予告

2020年は3月10日～15日開催予定。

友の会会員募集中!

《会の目的》・版画美術館の事業活動支援・会員の教養、親睦を深める・美術、文化および地域文化の向上
《主な特典》美術館企画展が会員証呈示で、無料で観覧、当館発行書籍の割引があります
《年会費》一般会員3000円(入会年5000円)・ファミリー会員2000円(入会年3000円)・学生会員2000円(入会年も同じ)・賛助会員1口10000円(法人・個人不問・口数任意・各種特典あり)※申し込みは友の会事務局へ

TEL・FAX 042-726-3051

友の会会員のアーツスクール

■絵画教室「やさしい水彩画講座」(全5回)

9/20午前・9/20午後・9/27午前・9/27午後
10/18午前

■銅版画教室(全9回・募集要項9月発送)

12/14・1/11・18・25の各土曜午後
2/8・15の各土曜の午前と午後

友の会会員のサークル活動

△美術館めぐり

2019/11/14(木)

「切手の博物館」「学習院大学史料館」「自由学園明日館」

△木版画倶楽部

毎月第4木曜 13～16時 友の会事務所にて
毎月原則第2土曜 13～17時 美術館アトリエ
・4月よりカレンダー作りを開始、10月末までに完成
・10月より年賀状作成予定 ・その他自由制作

いずれも自由に見学でき、デモンストレーションも行います。お待ちしております。

事務局だより

- 2019/5/14 会員あて発送(総会議事録・まつり概要)
- 5/17 合同部会
- 6/3 バスによる美術館見学会
(中川美術館・MOA美術館)
- 6/4 まつりデザイン募集要項検討
- 6/8 玉川大学まつり現地見学(教員1名・学生15名)
- 6/11 第21回ゆうゆう版画美術館まつり運営委員会・
催事リーダー会①
- 6/14 アーツスクールについて普及係と打合せ
- 6/18 ゆうゆう版画美術館まつり
ポスター・デザイン募集開始
- 7/12 事務局臨時打合せ(21回まつりについて)
- 7/15 アートバザール出展募集掲載(広報まちだ)
- 7/31 まつりポスター・デザイン審査委員会
- 8/2 まつり事前予告:館内に設置
- 8/27 合同部会(友の会運営について)
- 8/30 Han版 Fan 59号発行

『今後の予定』

- 9/3 会員あて発送作業
- 9/3 ゆうゆう版画美術館まつり運営委員会・
催事リーダー会②

- 10/4 内覧会支援「浮世絵黄金時代の美人画」展

編集後記: 6月、元美術館副館長であり、友の会賛助会員の園部芳徳氏が逝去されました。ご冥福をお祈り申し上げます。

mm

畦地梅太郎 わたしの山男

2019年7月6日(土)～9月23日(月・祝)

会場 第1企画展示室

畦地梅太郎(1902-99)は「山の版画家」として知られます。噴煙をあげる浅間山の生命力に感動し、畦地は山を制作の主題に定めました。決して大きくはない版画の画面に、力強く雄大な山の姿をとらえるために努力を重ね、風景版画家としての評価を確立しました。

しかし畦地は山の外観を描くことに飽きたらなくなっていました。山で感じた自分の気持ちをよりはっきりと伝えたい、そのために創り出されたのが「山男」です。素朴で温かな「山男」は人々の心をつかみ、畦地作品の代名詞となっていました。この展覧会では「山男」シリーズに焦点をあて、約100点の作品により、畦地が彼らに託した思いを探ります。
(学芸員 和南城愛理)

月曜休館 一般800(600)円/大・高生、65歳以上400(300)円

* ()内は20名以上の団体料金/中学生以下は無料

* 7月6日(展覧会初日)は無料

畦地梅太郎「冬の山男」1955年 木版



インプリントまちだ展2019 ー田中彰 町田芹ヶ谷えごのき縁起

2019年7月6日(土)～9月23日(月・祝)

会場 第2企画展示室

若手アーティストが町田に取材した作品を発表する「インプリントまちだ」の第三弾として、田中彰(たなか・しょう 1988年生まれ)を招へいします。

自然と人の関わりを木版画で表現してきた田中は、町田のなかで「木と人が築いてきた関係性」に注目。当館が位置する芹ヶ谷公園で再整備のため伐採予定だった「エゴノキ」を、作家とその活動に共鳴するさまざまな専門家の力を借りて根から丁寧に掘り起こしました。本展で発表する新作ではエゴノキから切り出した版木に作家が町田での取材で得たイメージを刻み、木に新たな命を吹き込みます。このほか作家がやわらかな感性で手がけてきた旧作とあわせ、約150点をご紹介する展覧会です。

(学芸員 町村悠香)

月曜休館 一般800(600)円/大・高生、65歳以上400(300)円

* ()内は20名以上の団体料金/中学生以下は無料

* 7月6日(展覧会初日)は無料

田中彰「町田芹ヶ谷えごのき縁起」

2019年 木版

